

NGO・NPOの環境保全活動を支援します。

環境再生保全機構

No.29

地球環境基金便り

特集 未来のための教育



写真提供：ESDキッズクラブ

未来のための教育

ESD

ESD (Education for Sustainable Development) は、未来のための教育。環境と開発の問題を解決し、持続可能な社会をつくるための教育活動が、今日も各地で行われています。

2005年からスタートした「国連持続可能な開発のための教育 (ESD) の10年」は、2014年に最終年を迎えます。(詳細は6ページからの実践例をご覧ください)

Contents

特集 「未来のための教育」

巻頭インタビュー

高橋尚子さん

日本の子どもたちからケニアの子どもたちへ。

「靴」が つなげる未来への「夢」…………… 3

14ページのアンケートにお答えくださった方の中から抽選で4名の方に、高橋尚子さんのサイン色紙、もしくはサイン入りエコバッグをプレゼントいたします。



ESDの実践例 環境と教育の現場から

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター…………… 6

ESDキッズクラブ

財団法人 損保ジャパン環境財団

認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会…………… 8

えひめグローバルネットワーク

助成団体レポート

特定非営利活動法人ザ・ピープル

次世代につないでいきたい古着リサイクルの市民の輪…………… 10

「ミニユニティ・ユース・バンク momo」

地域のお金を地域で生かす「お金の地産地消」に向けて…………… 11

地球環境基金のサポーター

寄付事例の紹介／感謝状「ほし」贈呈者の活動…………… 12

パンフレット・広報誌設置のご協力

感謝状「みどり」贈呈者の活動…………… 13

地球環境基金をご支援くださった方々…………… 14

わたしたちも応援しています！地球環境基金

日本大学高等学校 生徒会「桜苑祭」実行委員会

みんなで作る「桜苑祭」バザーの収益は地球のために…………… 16

表紙

ESDキッズクラブ

▼ <http://esd-kidsclub.ecgo.jp/>

幼児期に「環境」の種を植える「環境しつけ」を実施するための指導員の育成（熊本県）



巻頭
インタビュー

高橋 尚子さん

シドニー五輪女子マラソン
金メダリスト

日本の子どもたちから
ケニアの子どもたちへ。

「靴」がつなげる 未来への「夢」。

【写真提供】スマイル アフリカ プロジェクト / Photo 鈴木 勝

マラソン選手として世界の舞台で活躍してきた高橋尚子さん。昨年から、ケニアの子どもたちに、日本の子どもたちから集めた靴を贈る「スマイル アフリカ プロジェクト」という活動を行っています。今年5月に二度目のケニアを訪れた高橋さんに、その活動やケニアと日本の子どもたちに対する思いをお聞きしました。



すり傷で命を落とす子どもたち

マラソンをする私にとって、靴は体の一部であり、一番大切なものです。ケニアには靴の履けない子どもたちがまだまだたくさんいる、私にとって大切な靴が、その子たちに届けられることで、日本とケニアの橋渡しになればという思いからこのプロジェクトに参加しました。

昨年、初めてケニアに靴を届けに行きました。初めて靴を履いた子どもたちは、羽が生えたように飛び回るんじゃないかな、そんな姿を思い描いていました。でも、現地に行くと、特にキベラ地区に足を踏み入れた途端、自分の甘さを思い知らされました。キベラ地区は、約2・5平方キロメートルのエリアに、80万人から200万人が

住むといわれるナイロビ近郊のスラム街です。道には、ごみが散乱し、動物や人の糞尿が垂れ流しになっている。そんな中を子どもたちが裸足で走り回っているんです。そして、病院には、ガラスの破片などですり傷や切り傷を負った子どもたちがたくさんいました。小さな傷から寄生虫や病原菌が入って、感染症になって、命を落とすこともある。現実を目のあたりにして非常にショックを受けました。

日本の子どもたちの思いを ケニアの子どもたちに

プロジェクト開始から一年間で、日本全国から約1万5000足の靴を頂きました。皆さん、靴を洗ってきれいにして、送料まで負担してください。温かい心がないとできないですよ。

①履きつぶされ、親指に穴が開いた靴



小学校などにも協力をお願いしました。そうしたら、子どもたちが一生懸命、ケニアのことを勉強してくれて。普段あつて当たり前のように使っている靴の大切さに気付いて、ケニアの子どもたちのために協力しようと思ってくれたんですよ。「ケニアの子どもたちに渡してください」と靴を持ってきてくれました。

皆さんそこまで考えて靴を提供して下さるのだから、自分の靴がどうなっているのか、とても気になると思っています。今回は、そうした皆さんの気持ちと一緒に、再びキベラを訪ねました。

以前訪れたときに「陸上選手になりたい」と言っていた子の靴は、この一年で履きつぶされ、指のところの大きな穴が開いていました。「毎日洗ったけどこんなに黒くなっちゃった」と恥ずかしそうに

言う姿に、大切に履いてくれたんだな、日本の子どもたちの思いがケニアの子どもたちにちゃんと伝わっているんだなと胸が熱くなりました。

靴が子どもたちの夢をつなげる

このプロジェクトには、ソウルオリンピック男子マラソン銀メダリス

- ② 子どもたちの笑顔とワキウリ選手に囲まれて
- ③ 子どもたちと一緒に走るソトコト サファリマラソン



トのワキウリ選手が、ケニアの担当としてかかわってくれています。彼も子どもたちの靴がなくて、コーヒー豆を摘んでお金を貯めて、ようやく靴を買うことができたそうです。そして、陸上選手になる夢をかなえた。キベラの子どものうち、パイロットや先生になりたいなど、みんな夢をもっています。私たちが贈った靴が、ケニアの子どもたちの健康で安全な生活をサポートして、彼らの夢を一步先につなげていくものとなればと思います。

ケニアでは、靴を渡した子どもたちと一緒に6キロメートルを走る「第2回ソトコトサファリマラソン」も開催しました。ケニアの日本人学校に通





④一人一人、足のサイズを確認して靴を渡す
⑤コゲロ村では2000本の苗木を植樹

①～⑤【写真提供】スマイル アフリカ プロジェクト/
Photo 鈴木 勝



たかはし なおこ

1972年岐阜市生まれ。98年の名古屋国際女子マラソンで初優勝、以来6連覇。2000年シドニーオリンピック金メダル受賞、2001年ベルリンマラソンで女子初の2時間20分の壁を破り、世界新記録で優勝。2008年に現役引退を発表。現在は大阪学院大学特任教授やスポーツキャスター、「スマイル アフリカ プロジェクト」などで活躍中。

できることを一歩ずつ
やがて大きな花が咲く

今回は、ケニア西部のコゲロ村（人口約3600人）でも、子どもたちに

う子どもたちもたくさん参加してくれて、ケニアの子どもたちと一緒に手をつなぎながら走っていました。子どもたちって、一人手をつなぐと、二人三人四人と、どんどんつながっていくんです。国籍や人種が違ってても、子どもたちにはそういう壁がない。大人も見習わなくてはと教えられました。

いつか靴を渡したケニアの子どもの中から、ワキウリ選手のようにオリンピックに出場する選手が出て、日本の子どもとケニアの子どもが一緒に舞台に立つ日を夢見ています。

ある400近くあると言われる学校のうちの2校、そして、キベラ以外では、

2000足の靴を渡してきました。ここでは環境活動として、靴と同じ数本の苗木を植える新たな活動もしました。ケニアでは今、燃料に使う木や木炭のための伐採が進み、森の木が減っています。森は、二酸化炭素を吸収して酸素をつくったり、生き物のすみかになったり、ケニアにとっても地球にとっても大切なもの。木を植えることで、ケニアの子どもたちに、自然の大切さや環境問題をもっと知ってもらいたい。

靴を贈ること、苗木を植えることは、環境や貧困といった大きな問題を解決するには、小さな一歩かもしれません。このプロジェクトでは、キベラ地区にある400近くあると言われる学校のうちの2校、そして、キベラ以外では、

と、花を咲かせていくことができると思います。

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」。これは高校のときに先生が教えてくれた言葉で、なかなか結果を出せないときでも、今やっていることは無駄にはならない、根を張って土台をつくり、それが力となって、必ずいつか大きな花が咲く。現役時代も今も、この言葉は私の心の支えになっています。

この草の根活動も、一歩ずつ前に進み、花を咲かせていくことができると思います。



スマイル アフリカ プロジェクトとは

「子どもたちに笑顔のシューズを贈ろう」を合言葉に、日本の子どもたちのサイズが合わなくなった靴を回収し、素足や素足に近い状態での生活を余儀なくされているアフリカの子どもたちに靴を贈るプロジェクト。まだ使える靴を回収することによって、モノを大切にする気持ちを育て、環境問題への喚起を呼びかけている。2009年4月にスタート。これまで15,000足以上の靴を回収し、ケニアに届けている。

ウェブサイト ▶ <http://www.sotokoto.net/smileafrica/>



ESDの実践例 環境と教育の現場から

ESD（持続可能な開発のための教育 ※左図参照）の取り組みが、全国各地で行われています。環境破壊や貧困問題のない未来をつくるために、私たち一人一人がそれぞれの地域や社会の中で「学び、つながり、始める」ことがESDです。ここでは、未来のための教育に取り組む5つの団体の活動を紹介します。



Case 1

ESD キッズクラブ（地球環境基金助成団体）

幼児期から育もう 環境教育の「種」



「水の出しっ放しはダメばい！」「これを捨てるのはもったいなか〜」——熊本市の市民団体「ESD キッズクラブ（※1）」は、県内の幼稚園・保育園で園児を対象に「環境しつけ講座」を開催しています。この講座は、同団体が提案する「ESD キッズプログラム」の一つで、環境教育の原点として“ものを大切にする”“もったいない”の精神を子どもたちに

幼児期から、紙芝居やゲームを通して楽しみながら伝えていく活動です（※2）。

「小中学生、そして大人になっても環境への気配りが当たり前になるようになること。その基礎を幼児期に身につけておくことが大切です」（代表・梅田幸代さん）

昨今の環境への意識の高まりから、幼児期における環境教育への関心も高まってきています。しかし、現場の先生たちが、その最初の一步

を踏み出せない現状もあります。そこで、同団体はプログラムの一環として「エコな先生講座」を開催。率先して取り組む先生向けに、環境を取り入れた授業や保育

の企画、保護者への情報発信などの実践方法を紹介しています。また、同団体は保護者向け環境教室も実施。「環境しつけ」が幼稚園・保育園だけでなく、各家庭でも行われることで、環境教育の「種」が確実に根付くように取り組んでいます。

※1 ESD キッズクラブは、幼稚園・保育園を対象に、幼児向け「環境しつけ」講座の開催、園の環境取り組み支援、保護者向け環境教室の開催などを柱に、幼児期の環境教育を支援する「ESD キッズプログラム」の普及に取り組んでいる。2007年設立。

☎ <http://esd-kidsclub.ecgo.jp/>

※2 手洗い学習を通して水の大切さを知る「もったいない！水編」や分別ゲームでリサイクルを知る「どうなる？リサイクル編」など、環境問題についての5編からなる。

環境しつけ講座の様子。ソーラーカーであそんでみよう



ESD (Education for Sustainable Development) って?

Why なぜ

これまでの開発は、物質的な豊かさをもたらす半面、地球温暖化などの環境問題や貧富の拡大、人権侵害などを生み出してきました。こうした課題を解決し、皆が安心して暮らせる世界にするために、自然環境や社会、経済とのバランスを重視した新しい開発の在り方が求められています。この未来に向けた取り組みの大切な基盤となるのが「持続可能な開発のための教育」です。

What 何を

ESDの取り組みは、環境分野を中心に地域づくりや国際協力、人権問題など多岐にわたります。目の前の課題に向かい合うことからESDの第一歩が始まります。

When いつ

1992年の地球サミット(ブラジル)で「持続可能な開発」が中心的な考え方として位置づけられ、2002年のヨハネスブルクサミットで日本が「ESDの10年」を提案し、同年の第57回国連総会で採択されました。

Who だれが

ESDの対象は、子どもたちだけではありません。幅広い世代の様々な立場の人々がESDの担い手であり、学び手になることが期待されています。

Where どこで

NGO・NPO、学校、企業、自治体、公益法人、研究機関など、多くの組織や団体が全国各地でESDに取り組んでいます。

Case 2

NPO法人 グリーンウッド自然体験教育センター

自然や人とのつながりを山村の暮らしの中で学ぶ



小学3年生から中学2年生までの都会に住む子どもたちが、親元を離れ、南信州の山村で1年間共同生活を体験する――。NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター(※1)では、1980年代から、山村留学・暮らしの学校「だいだらぼっち」(※2)を実施して

地元の猟師さんも山村の暮らしを教えてください先生です



います。ここで子どもたちは、地元の学校に通いながら宿泊施設で集団生活をし、食事づくりや洗濯、掃除、風呂たきなど、暮らしにかかわるすべてを自分たちで行います。その他にも、まき割りをしたり、食器やカップを陶芸で作ったり、野菜や米作りなど、山村留学の醍醐味を生活の中で体験します。

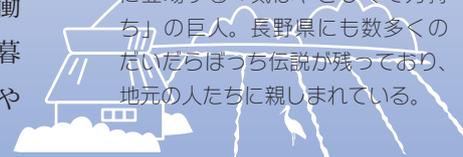
「子どもたちは失敗もしますが、みんなで学び、教え合うことで、今までできなかったことができるようになる。こういう経験を通じて、思いやりや支え合い、チャレンジすることの大切さを、本当の意味で分かってくるんです」(事務局長・佐藤陽平さん)

小さな山村の中で、食べる、働く、遊ぶ、創る、伝えるなどの「暮らし」を「学びの原点」とし、人や

地域・自然とのかかわりを感じながら、「心の豊かさ」や「生きる力」を育む「だいだらぼっち」。これまで、約350人の子どもたちがこの山村留学を体験。子どもたち、保護者たちからは、「成長させてくれた場」として感謝の声が多く寄せられています。

※1 グリーンウッド自然体験教育センターは、日本の豊かな自然環境を活用した自然体験教育活動を推進するNPO法人。次代の担い手である青少年が「心の豊かさ」や「生きる力」を育てていくことを支援するために、森・川をフィールドにした多彩な自然体験教育プログラムを実施。2001年設立。
☎ <http://www.greenwood.or.jp/>

※2 だいだらぼっちは、日本各地の民話に登場する「気はやさしく力持ち」の巨人。長野県にも数多くのだいだらぼっち伝説が残っており、地元の人たちに親しまれている。



くための教育も行っています。

「自分たちの海を自分たちの力で守ること。そこから命の尊さや生きるための力を学んでほしいです」(理事長・関口雄三さん)

同会は昨年、「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を立ち上げました。2010年夏には、葛西の海で子どもたちの水遊びイベントを通して、東京湾内の海水浴場の復活に更なる啓発を行います。

※1 ふるさと東京を考える実行委員会は、子どもたちが海辺に親しむための環境教育活動や、NPO、市民活動を支援。2001年任意団体として発足。2010年に認定NPO法人化。

☎ <http://www.furusato-tokyo.org/>

※2 1個のカキは1日に400リットルもの海水をろ過するといわれている。マリナーアニングでは、カキ以外の二枚貝や、ノリ、ワカメなどの海藻も利用して水質浄化を行っている。

名前や絵を書き込んだフロート(浮き)に稚ガキを取り付ける子どもたち



Case4

財団法人 損保ジャパン環境財団

学生を環境NPOへ インターンシップ派遣

損保ジャパン環境財団(※1)の「CSO(※2)ラーニング制度」は、大学生や大学院生を8か月間インターン生としてCSOに派遣して、自然保護の現場体験や環境講座の運営などをしてもらうもの(※3)。インターンを通して、参加者が環境問題や市民社会のあり

里山合宿で、菜の花植え付けを体験する学生たち



方などを考え、より視野の広い社会人として巣立っていくことを目的としています。「スタート当初のころに比べ、環境問題への関心が高まったせいか、自分の学習のためだけでなく、行動することで人や社会に影響を与えたいと応募してくる学生さんが増えました」(同財団課長・芦沢壮一さん)

インターン生は、約40のCSOに派遣され、干潟や里山の保全や田畑での観察や収穫、教育プログラムの制作や会報作りなどに取り組みます。終了後の報告書には、「ウミガメの保護活動を通して、人と動物とのかかわりを意識できるようになった」「今後はCSOと市民との距離がもっと身近になる方法を探っていきたい」など、彼らが貴重な体験から気付き、学びとった声がたくさん寄せられています。



「木を植える『人』を育てたい」との願いが込められたこの制度。2001年の開始から現在までにインターンシップを経験した学生は、約600人に上ります。

※1 損保ジャパン環境財団は、環境分野の人材育成、情報収集や提供、活動・研究への支援などを通して環境保全に資することを目的とした財団法人。1999年設立。

☎ <http://www.sjef.org/>

※2 CSO(Civil Society Organization)。NPO・NGOを含む市民社会組織。損保ジャパン環境財団のCSOラーニング制度の対象となる団体としては、「持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)」や「気候ネットワーク」などがあげられる。

※3 インターン生には、1時間当たり800円の奨学金と交通費を支給。その一部は、損保ジャパン社員の寄付金である「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」を活用している。

認定NPO法人 ふるさと東京を考える実行委員会（地球環境基金助成団体）

Case3

東京湾を子どもたちが泳げる海に

現在は、数えるばかりとなってしまった東京湾の海水浴場。戦後間もないころは東京湾の各地にたくさんの海水浴場がありました。減少してしまった理由の一つとして水質の問題があるとされています。

「ふるさと東京を考える実行委員会」(※1)は、10万人署名活動や水質浄化実験、子どもたちが海を身近に感じるためのイベント(ノリ育成や潮干狩り、ハマグリ放流、海辺の生き物観察会)などを通して、子どもたちが泳げる海を

復活させる活動を展開。なかでも、カキ等の水質浄化生物を活用した「マリंगाーデニング」は、アメリカで行われている「オイスターガーデニング」を日本に導入する試みです(※2)。同会はこのマリंगाーデニングを、子どもたちを対象に体験学習として実施することで、泳げる海づくりのための過程に参加してもらうとともに、子どもたちがその環境を継承してい

えひめグローバルネットワーク

Case5

銃を自転車に— モザンビーク支援プロジェクト

えひめグローバルネットワーク(EGN ※1)では、自転車、足踏みミシンなどの支援物資をアフリカ・モザンビーク共和国に送る活動を10年間続けています(※2)。物資は、同国の内戦後、人々の間

コンテナ輸送のための準備。市内の学生とモザンビークからの研修生が支援物資のいすに錆止めを塗る



に残された銃などと交換され、平和構築のために役立てられてきました。

輸送される自転車は、松山市が放置自転車として回収したもの。高校生ボランティアなどにより修理され、小学生を中心に集めた文房具などとともに輸送されます。日本で使われなくなったものをリユースするこの活動は、大量消費や廃棄の問題を考える環境教育の場にもなっています。この他にもEGNでは、スタッフが「平和の語り部」(※3)として市内の小・中学校で講演。子どもたちにモザンビークの歴史・現状を知ってもらい、「自分たちでできることをしたい」という思いを、輸送費のための募金活動等へ発展させています。

「両国の人々がともに学びあう



こと、助け合うこと。私たちの活動は、物資を送る支援にとどまらず、より多くの市民の協力や国際理解を促す教育も含まれています」(EGNモザンビーク事務所長・横田美保さん)

※1 えひめグローバルネットワークは、「地球規模で考え、地域で行動し、自ら変わっていくこと」をモットーに、海外支援事業やフェアトレードの促進、環境保全活動、異文化理解講座、各種講演・イベントの開催などを行う愛媛県松山市のNPO法人。1998年設立。
☎ <http://www.egn.or.jp/>

※2 これまでに約600台の自転車をモザンビークに輸送。

※3 松山市が戦争の悲惨さや平和の大切さを伝える人を登録し、小・中学校に講師として派遣する事業。

いわき発 ファイバーリサイクル* 地域拡大事業

NPO法人 ザ・ピープル

特定非営利活動法人 ザ・ピープル

〒971-8101 福島県いわき市小名浜字本町11-1 まちづくりステーション小名浜内
http://www.iwaki-j.com/people/

市内・県内各地に育成してきた古着リサイクル団体の連携により、効率良いファイバーリサイクル活動を実践。若いボランティアの育成にも力を入れ、市民主体のまちづくりの推進を目指している。(一般助成)

*ファイバーリサイクル：古着などの繊維製品を再利用すること

次世代につないでいきたい 古着リサイクルの市民の輪

福 島県いわき市のショッピン
グセンターの一室。山のよ

うに積まれた約7000点の子ど
も服の中から、お母さんたちが一
生懸命、自分の子どもの服を選ん
でいます。ここは、いわき市のN
PO法人「ザ・ピープル」が年2
回開催する「おさがりバザー」の
会場。格安で販売されている子ど
も服は、いわき市周辺から回収さ
れたリサイクル品です。

ザ・ピープルは、市内の女性グ
ループが中心となって1990年
に発足した市民団体。「古着を捨
てて燃やすのはもったいない」「自
分たちの町の問題として考えよ
う」と、92年から独自のネットワー

クで古着のリサイクルに取り組ん
でいます。現在、いわき市をはじ
め郡山市、福島市等、約40か所に
回収ボックスを設置して古着を回

収。いわき市内だけでもその量
は1年間で200トンにも上りま
す。「回収した古着は倉庫に運び、
ボランティアが一つ一つ仕分けを
します。状態が良いものは販売用、
それ以外のものはウエス用、ウー
リリサイクル用、輸出入など、細

かく分けれますから、その作業はか
なり大変なんです。でもそのおかげ
で、回収した古着の90%以上の
リサイクル率を達成しています。
おさがりバザーが、地域の中で古
着を循環させるきっかけになると



6点を購入した村田さん親子。
「初めての赤ちゃんで、これか
らいろいろそろえなくてはな
らないので助かります」



エコモコ教室で子どもたちに作り方を
教えるスタッフの加藤法子さん

ともに、地域の子育て支援にもな
ればと思っています」と言うのは
理事長の吉田恵美子さん。

おさがりバザーの会場では、
セーターなどをリサイクルしてで
きる「エコモコ」というフェルト

でぬいぐるみを作ったり、裂き布
でぞうりを作ったりする「手芸教
室」も行われています。フェルト
のぬいぐるみ作りを担当してい
たのは20代のスタッフ、加藤法子
さん。「手芸教室を通じて、子ども
たちにも古着が資源として使える
という意識をもってもらいたい。
バザーや店舗でも子どもとの対話
を積極的に行っています」(加
藤さん)

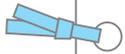
「福島県を古着を燃やさない県
に！」と提唱するザ・ピープル。
今後、さらに回収地域を拡大する



左：回収された古着の仕分け作業を手伝う学生ボランティア
右：市内各所に設置されたリサイクルボックス



ために市民の輪を広げています。
「古着を燃やさない社会づくりの
ために、もっと多くの若い人たち
にも参加してもらって、次世代
にこの活動をつないでいきたいで
す」(吉田さん)



環境保全活動を支える ソーシャルファイナンス促進事業 コミュニティ・ユース・バンク momo

コミュニティ・ユース・バンク momo

〒460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町9-16 有信ビル2階
http://www.momobank.net/

環境保全活動を行うNPOなどが、資金など必要な経営資源を社会から集めることができる「ソーシャルファイナンス」を実現するため、NPOや市民、金融機関同士の情報共有を図る。(一般助成)

地域のお金を地域で生かす 「お金の地産地消」に向けて

わたしの暮らすまちで、子
や孫がずっと、暮らして
いけるように。コミュニティ・
ユース・バンクmomo(※1)は、
愛知・岐阜・三重の東海3県を
対象に市民からの出資金をNP
Oなどの地域を豊かにする事業
に融資するNPOバンク(※2)

です。バンクといっても、mo
moに出資することは「預金」
にはなりません。「こんなまちや
未来をつくりたい」という地域
に住む人々の強い思いのこもつ
た「志金」が、元本の保証も金
銭的な配当もないこの仕組みを
支えています。

momoでは2010年
7月現在、389の個人・
団体から出資を受け、13の
団体・個人に融資していま
す。momoによる融資の
特徴は、出資者による融資
先訪問ツアーを実施するな
ど融資先の情報を共有する
ことで、「出資者」(市民)
と「借り手」(NPOなど)
がつながり続けること。m
omo主催で開催された
「ソーシャルファイナンス
研究会2010」第1回研
究会(6月19日開催。東海
労働金庫本店別館・名古屋
市)では、融資先の一つ、



ソーシャルファイナンス研究会では、これまでに国内外の事例を学ぶセミナー、金融機関の取り組み状況調査、NPOが資金を確保するための体験講座などを実施

岐阜県郡上市のNPO法人「こ
うじびら山の家」が、田舎の遊
びや暮らしを楽しむための体験
プログラムの提供や、若者の定
住促進事業などの取り組みにつ
いて活動報告。momoによる
融資で、こうじびらでは活動拠
点となっている施設を改修する
ことができました。



NPO 法人「こうじびら山の家」が行う体験プログラムでのひとコマ。山でたき木を集める参加者

「地域の資源を生かし、地域で
働きながら暮らしていける仕組
みが、こうじびらにはあります。
しかし、財政基盤が弱いNPO
が活動のために資金調達するの
はとても困難です。地域に住む
私たちのお金を地域に住む私た
ちの暮らしに生かされる形で循
環させたい。これが、momo

の目指す「お金の地産地消」で
す」(momo代表理事・木村真
樹さん)

若者を中心に約50名が参加し
た第1回研究会では、「お金の地
産地消」のスタート地点である
「志金」をいかに集めるかも話し
合われました。活動を行うため
に必要な経営資源を地域社
会から募るソーシャルファイナ
ンスでは、より多くの人が地域
の活動に参加できる仕組みづく
りが重要だとの意見が出されま
した。一人一人が主体となって
地域の未来を考え、意思をもつ
て選択し、行動すること。「お
金の地産地消」は、地域が自立
するための道を探る試みだとも
いえます。

※1 2005年設立。若者を中心
としたボランティアスタッフ
「momorenジャー」が、団体
の運営、出資者・融資先をつな
ぐ役割を担う。団体名の「mo
mo」はドイツの作家ミヒャエ
ル・エンテによって書かれた
『モモ』に由来する。

※2 市民が自発的に出資した資金
により、地域社会や福祉、環境
保全のための活動を行うNPO
や個人などに融資することを目
的に設立された非営利バンク。

の方々をご紹介します。(敬称略)



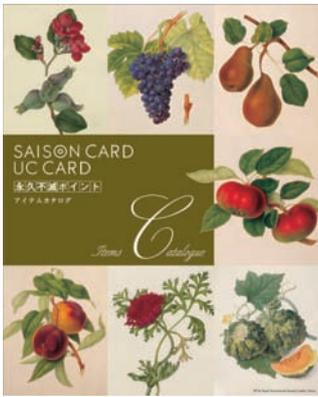
寄付事例

皆様の環境保全への思いをかたちに
する地球環境基金への募金活動。そ
の一例をご紹介します。

「永久不滅ポイント」を利用して ご寄付いただけます

株式会社クレディセゾン

「永久不滅ポイント」は、セゾンカード・UCカード
会員を対象とした、ショッピングご利用金額に応じて
貯まるポイントを、お好きなアイテムと交換できる有
効期限のないポイントプログラムです。株式会社クレ



株式会社クレ
ディセゾン (本社：東
京都豊島区) は、永久
不滅ポイントのポイン
ト交換アイテムとし
て、国内外の慈善団
体に寄付をすることが
できる「チャリティプ
ラン」を展開しており
、2010年5月1日から
、地球環境基金がその
寄付先の一つに変わ
りました。

また、同社は群馬
県赤城山西麓の約
120ヘクタールに及
ぶ「赤城自然園」の運
営を通じて自然環境
保全活動にも取り組
んでいます。同園は
昨年3月に閉園した
ものの、再開園を求
める多くの声を受け



赤城自然園 (<http://akagishizenen.jp/>)
群馬県渋川市赤城町南赤城山892
開園期間：4月～11月

て株式会社クレディセゾンが運営を担い、今年4月2
日より再開園いたしました。シャクナゲの有名な「セゾ
ンガーデン」の他、野山の草花がのびのび育つ環境をつ
くる「四季の森」と「自然生態園」の3つのエリアがあり
、本来の森の姿を守ることで環境の保全と生物多様性の
保全に努めています。

感謝状「ほし」贈呈者の活動

地球環境基金では、一定額以上のご寄付をしていただいた方へ、感謝状を贈呈しています。

日本カートリッジリサイクル工業会

日本カートリッジリサイクル工業会は、トナーカート
リッジのリサイクルを推進する企業会員 (正会員：33社、
賛助会員：21社) で構成され、「地球温暖化抑制のための
3R (Reduce, Reuse, Recycle) の推進」などの方針に基づ
き活動する工業団体です。



独自の環境ラベル「トナーカート
リッジ・リユースラベル」

同工業会は独自の環境ラ
ベルを定め、会員に販売し
て会の活動資金等に充当し

ています。この度、
その売り上げの一部
を地球環境基金にご
寄付いただき、感謝
状の贈呈条件を満た
したため、感謝状「ほ
し」を贈呈させてい
ただきました。



当機構理事長の湊より日本カートリッジリサイ
クル工業会の浜谷会長に感謝状を贈呈しました

(平成22年4月22日贈呈)

※感謝状「ほし」贈呈要件 個人：地球環境基金に20万円以上のご寄付をしてくださった方、または累計で50万円以上のご寄付をしてくださった方。 団体：50万円以上のご寄付をしてくださった団体、または累計で100万円以上のご寄付をしてくださった団体。



パンフレット・ 広報誌設置のご協力

地球環境基金の助成団体や寄付者を紹介するパンフレットや広報誌が、より多くの方々に届くように応援していただいております。

食を通じて環境に配慮したライフスタイルを

財団法人国民公園協会

皇居外苑、京都御苑、新宿御苑の維持管理、利用者サービスを行う財団法人国民公園協会では、公園内の休憩所などにおいて地球環境基金のパンフレットと広報誌「地球環境基金便り」の設置にご協力いただいております。

また、環境と調和した施設運営を目指す同協会では、環境保全のための様々な活動にも取り組んでいます。



地球環境基金のパンフレット・
広報誌を設置いただいています
(写真は楠公レストハウス内)

皇居外苑の楠公レストハウスにおいては、食と環境をテーマに「エコクッキング(*)」や「生ゴミ処理機での堆肥化^{たいひ}」、「廃油リサイクル」などを実施。中でも、エコクッキングは環境省のチャレンジ25キャンペーンの一つとしても注目されています。

楠公レストハウスで8月1日から提供が

開始された「江戸エコ行楽重」は、かつて同地は江戸城があったということにちなみ、循環型社会といわれる江戸時代の食生活をお手本として、旬の食材、地産地消の野菜や魚を使用し、当時の文献などをもとにエコクッキングで再現したものです。散策や観光、修学旅行などで各地からのお客様でにぎわう皇居外苑。江戸の食文化を通じて環境に配慮したライフスタイルを提案しています。



8月1日から提供された「江戸エコ行楽重」(予約制)

*「食」を通じて、「身近な題材で、環境問題を体験的に楽しく考える」というコンセプトのもと、買い物から調理方法、片付けに至るまで環境に配慮する食生活のこと。(エコクッキングによる新宿御苑の「エコドライブカレー」については、「地球環境基金便り」28号に掲載されています)

感謝状「みどり」贈呈者の活動

地球環境基金では、より多くの寄付者の皆様に感謝の意を表すため、感謝状「ほし」に加え、一定条件(*)を満たすご寄付をいただいた方に対して、感謝状「みどり」を発行しています。こちらではその贈呈者の方々の募金活動のいくつかをご紹介します。

東京ガス株式会社 環境エネルギー館 (神奈川県横浜市)

横浜市鶴見区にある東京ガス株式会社の環境エネルギー館は、子どもたちの豊かな感性から生まれる「センス・オブ・ワンダー(不思議に思う心)」を大切に、見て触れて、参加できる学びの場です。

「地球大好き人間」の輪を広げることをコンセプトメッセージに掲げる環境エネルギー館では、1階のエントランスホール受付と2階の環境情報センターのカウンターに地球環境基金の募金箱とパンフレットを設置し、募金活動へご協力をいただいております。(平成22年7月12日贈呈)



株式会社永代運輸倉庫 (京都市伏見区)

株式会社永代運輸倉庫(本社：京都市伏見区)は、“環境に対しての一人一人の小さな意識が環境維持につながる”この言葉を理念として、京都府、滋賀県を中心に100%リサイクルを目指したガラス瓶や廃蛍光灯の収集・運搬を行っています。同社からは、廃蛍光灯の収集運搬費の一部を地球環境基金にご寄付いただいております。(平成22年2月12日贈呈)



廃蛍光灯をリサイクル施設に運搬します

※感謝状「みどり」贈呈要件 **個人**：地球環境基金に累計で5万円以上のご寄付をしてくださった方。 **団体**：地球環境基金に累計で10万円以上のご寄付をしてくださった団体。(2009年10月以降、入金が確認された方から随時発行しております。)

この他にも、感謝状「そら」をご用意しております。 感謝状「そら」贈呈要件 **個人**：地球環境基金に累計で20万円以上のご寄付をしてくださった方。 **団体**：地球環境基金に累計で50万円以上のご寄付をしてくださった団体。



東温市では、エコ・キッズたちの地球環境を守る取り組みによるCO2削減等の貢献分を評価し、地球環境基金に寄付しています。
(自治体：東温市役所様)

小平市役所	環境部	環境保全課
小平市	ごみ減量推進実行委員会	
五島市役所	富江支所	市民生活課 環境水道班
佐伯市役所	本匠振興局	市民サービス課
佐賀市役所	大和支所	環境下水道課
佐用町役場	住民課	
山陽小野田市役所	市民生活部	環境課
四條畷市役所	市民生活部	生活環境課
芝川町役場	町民課	
下仁田町役場	保健環境課	
上越市役所	市民生活部	環境企画課
白岡町役場	生活環境課	
白石市役所	民生部	生活環境課
関ヶ原町役場	水道環境課	
大仙市役所	神岡総合支所	市民課
高梁市役所	川上地域局	地域振興課
丹波市役所	環境部	環境政策課
茅野市役所	市民環境部	生活環境課
つくばみらい市役所	生活環境課	
津市役所	久居総合支所	産業環境課
津山市役所	加茂支所	市民生活課
鶴岡市役所	温海庁舎	建設環境課
東温市役所		
土岐市役所	経済環境部	環境課
徳島市役所	市民環境部	環境保全課
栃木市役所	市民生活部	環境課
豊岡市役所	出石総合支所	市民生活課
豊川市役所	環境対策課	

中津川市役所	蛭川総合事務所	
長浜市役所	余呉支所	福祉生活課
名古屋市南保健所		
那須塩原市役所	環境管理課	
成田市役所	環境部	環境計画課
南風原町役場	総務部	住民環境課
萩市役所	旭総合事務所	
浜頓別町役場	住民課	
東通村いきいき健康推進課		
兵庫県 農政環境部	環境創造局	自然環境課
平田村役場		
広尾町役場	住民課	環境衛生係
洋野町役場	町民生活課	
福崎町役場	住民生活課	
防府市役所	生活環境部	生活安全課 環境政策室
銚田市役所	市民部	生活環境課
牧之原市役所		
松阪市役所	飯南地域振興局	地域住民課
御嵩町役場	総務部	まちづくり課
美和町役場		
守谷市役所	生活環境課	
八頭町役場	船岡支所	
八女市役所	矢部支所	
湯沢市役所	市民生活部	生活環境課
嘉麻市役所	環境課	
和歌山市役所	まちおこし推進課	
度会町役場	生活環境課	

あ！渡辺飼育センター		
(財)泉佐野市公園緑化協会		
NPO エコバンクあいち		
沖縄リサイクル運動市民の会		
(特定)かえる倶楽部		
休暇村 蒜山高原		
高知市市民活動サポートセンター		
(特定)国際連合活動支援クラシックライブ協会		
堺市化学工業団地協同組合		
(社)産業と環境の会		
(財)自然公園財団 支笏湖支部		
(特定)シックハウスを考える会		
(特定)つくば環境フォーラム		
(社)鳥取県造園建設業協会 中部支部青年部		
中野区環境リサイクルプラザ		
流山工業団地協同組合		
日本カートリッジリサイクル工業会		
日本大学高等学校・中学校		
(特定)ねっとわーく福島潟		
水戸友の会		
(財)山形美術館 募金箱		
リサイクル自動車ポッポ		
ウインターリゾート実行委員会		
NTT 全国 OB 会		
電友会五ツ橋クラブゴルフサークル		
北九州エコカフェア2008 実行委員会 事務局		
教育委員会 鬼石分室		
ひろふみゴルフ実行委員会		

その他

あぞみ野ローンテニスクラブ

来館者の善意が少しずつ、まるで雪のよ
うに募金箱の中に降り積もってゆきま
す。多くの方々から寄せられた善意が実
を結ぶよう祈っています。

(その他：(財)山形美術館様)

【お断り】*このリストは、地球環境基金への振込通知書等に記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人及び企業・団体等の区別につきまして必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合がございますので、ご了承ください。
*法人の種別は略称にて掲載させていただいております。

平成22年6月末日現在の造成額：139億6,721万3,689円

平成22年1月から6月末日現在までの寄付金総額：4,171万418円(379件)

「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。お振込みの手数料は無料です。

銀行名	口座名称	口座番号
ゆうちょ銀行	地球環境基金	00190-0-664214

同一金融機関でのお振込みについては、取り扱い窓口でお申し出ください。

- ① 独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されています。
- ② ゆうちょ銀行以外の銀行からお振込みいただく場合には、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部企画振興課(TEL:044-520-9606)へご連絡ください。

銀行名	支店名	口座番号
新生銀行	本店	0789699
三井住友銀行	東京公務部	3013615
三菱東京UFJ銀行	本店	7637448
みずほコーポレート銀行	本店	2413416
りそな銀行	赤坂支店	1023850

口座名称：独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金
預金種目：普通預金

※この他にも、裏表紙でご紹介しておりますクレジットカードを利用した寄付や、楽天銀行を利用した寄付が可能です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
地球環境基金の情報館 ▶ <http://www.erca.go.jp/jfge/>



地球環境基金をご支援くださった方々

地球環境基金に、平成 22 年 1 月から 6 月末までにご寄付・ご支援くださった方々は次のとおりです。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、様々なイベントや地球環境基金主催の各講座などを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

個人

大塚 勝巳	田中 健三
大槻 博	富岡 悟
大西 章代	中川 由美子
大西 裕貴	西久保 裕彦
小園 直也	平野 康行
小田 キヨ	星野 建司
小林 正平	松本 菜央
佐々木 修	湊 亮策
嶋元 誠	弓削 佳央
鈴木 悠理	吉田 秀子・悠佑
陶山 耕	

企業

ITC ネットワーク(株) 営業サポート部
(株) IBS
(株) アクセル
朝日インベストメント(株)
(株) 内田洋行 九州支店
(株) 永代運輸倉庫
(株) エコノス
エヌ・ケイ・ケイ(株)
NTT コミュニケーションズ(株) 経営企画部 プロキュアメント統括室
FJB エージェント(株)
FJB サプライ(株)
(株) 沖縄ファミリーマート
川本工業(株)
関東バイオエナジー(株) 笠間支店
(株) キノシタ
キヨタ(株)
(株) クレディセゾン
健康堂整骨院
(有) 弘和商事

(株) サイバーガジェット
(株) サンシャインシティ
(株) サンビクトリー
(株) ジェイアール西日本 デイリーサービスネット
(株) ジェフグルメカード
システムニacol(株)
(株) ジャパンクリエイティブ
昭和マテリアル(株)
SUI INTERNATIONAL(株)
(株) セルバ
(株) そごう・西武
滝沢米店
東京ガス(株) 環境エネルギー館
(株) トーカイ
トータリゼータエンジニアリング(株) 中四国事業所
トータリゼータエンジニアリング(株) 園田分室
トータリゼータエンジニアリング(株) 東北事業所
日本環境安全事業(株) 東京事業所
(株) 日本フラワー振興協会
(株) パスポート
阪急阪神ホールディングス(株)
ファミマクレジット(株)
ファミマクレジット(株) 社員有志
(株) ファミリーマート
ファミリーマート みのかも蜂屋店
(有) ふじ井
(株) 富士通エフサス
(株) 富士通ビジネスシステム 千葉サービス部
(株) 富士通ビジネスシステム 秋葉原事業所
(株) プランタン銀座
(株) プリプレス・センター
(株) 北海道ファミリーマート
(株) ポッカコーポレーション カートカン事業推進グループ
三井住友カード(株) 東京法人営業部
三菱 UFJ ニコス(株)
CRM 推進部 CRM 推進第 2 グループ

(株) 南九州ファミリーマート
リコー IT ソリューションズ(株) 鹿児島事業所 有志一同

ストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会会場内で販売したカートカン自動販売機での売上を寄付させていただきました。

(企業：(株)ポッカコーポレーション
カートカン事業推進グループ様)

国・地方公共団体

愛知県庁 環境部 環境政策課
安芸高田市役所 八千代支所
浅口市役所 生活環境部 環境課
鯉ヶ沢町役場 町民生活課
天草市役所 環境課
綾瀬市役所 環境政策課
飯館村役場
飯綱町役場
一関市役所 室根支所 市民課
いなべ市役所 市民部 生活環境課
岩倉市役所 市民部 環境保全課
宇城市役所 豊野支所
雲南市役所 大東総合センター 自治振興課
恵那市役所 水道環境部 環境課
大館市役所 比内総合支所 市民課
大村市役所 環境保全課
開成町役場
笠間市役所 市民生活部 環境保全課
葛城市役所 環境課
河南町役場 住民部 生活環境課
上富田町役場 住民生活課
川崎町役場 町民生活課
環境省 募金箱
草津市役所 市民環境部 環境課
久慈市役所 市民生活部 生活環境課
熊取町役場 住民部 環境課
倉敷市役所 環境リサイクル局 環境政策課
倉敷市役所 真備支所 市民課 環境係
玄海町役場 値賀出張所

埼玉県本庄市でうなぎ屋を営んでいます。レジに募金箱を置いて、寄付しています。少しでも地球環境保全のお役に立てば幸いです。(企業：(有)ふじ井様)

みんなでつくる「桜苑祭」 バザーの収益は地球のために

日本大学高等学校 生徒会「桜苑祭」実行委員会

日本大学高等学校・中学校の生徒たちが楽しみにしている学園の一大イベント、それが毎年9月に開催される「桜苑祭」です。

「桜苑祭は、中学1年生から高校2年生までの生徒会メンバーが実行委員となって、企画から広報、運営まで生徒が中心になってつくりあげています。年に一度のみんなの発表の場です」(平成21年度実行委員長・北村菜穂さん)

しかし、昨年は新型インフルエンザの影響で思わぬ事態に。桜苑祭の開催直前に延期が決まり、2日間の日程も1日に短縮され、1か月遅れての開催となりました。「中学校が全クラス休校になり、これ以上の蔓延を防ぐための苦渋の決断でした」(教頭・野澤拓夫先生)



平成21年度桜苑祭実行委員会の皆さん

「夏休みの間、待ち遠しく思いながら準備を進めていたのに、それまでの苦労が無駄に…」(実行委員・山田知里さん)

「ご案内をしていた学校外の方にも延期を伝えたり、注文した商品をキャンセルしたり、対応も大変でした」(実行委員・深津萌子さん)

「桜苑祭の仕事をするのは初めてで、仕事を覚えるのに精一杯な中、バザーの商品の値付けを前日の1日でやらなければならず大変でした」と話すのは社会福祉バザー担当の宮腰隼人さん。毎年大盛況のバザーも、昨年は1日の開催となりました。

「当日の販売は後援会の方々にも手伝っていただいたので助かりました。例年より人通りの多い場所に会場を設けられたせいか、お客さんの数もいつもより多く、品物のほとんどが売れました。バザーの収益は、2003年から毎年、地球環境基金に寄付しています」(宮腰さん)

「生徒会では、ある生徒からの提案で始めたペットボトルのキャップの回収もしています。ゴミ箱の横に並べられた回収ボックスは、みんなの協力ですぐにいっぱいになるんです」(北村さん)

「生徒たちには、身近なところから地球環境に対する意識をもって、できることから行動してほしいですね。寄付金は、彼らが大人になった未来も安



多くの人でにぎわうバザー会場

心して過ごせる地球環境を守るための活動に役立ててほしいです」(生徒会指導部主任・大平岳詩先生)

学校創設80周年を迎える2010年桜苑祭のテーマは「ヒストリー」。彼らは地球の未来にどんなメッセージを残すのでしょうか。



ペットボトルのキャップは途上国の子どもたちのポリオワクチン代に。800個で子ども1人の命が救える

KIKIN NEWS 基金ニュース

◆ 新規の募金方法のご紹介



クレジットカード決済による募金を開始いたしました

地球環境基金では、これまでに銀行振込や募金箱の設置によって、皆様から多大なご協力をいただいております。

ご支援いただける方のチャンネルをさらに広げていくため、2010年7月1日よりクレジットカード決済による募金を開始いたしました。下記のURLからVISA、Masterのクレジットカードで、オンラインでご寄付いただけます。

☞「クレジットカードを利用した寄付」のページ

<http://www.erca.go.jp/jfge/donation/raise/creditcard.html>

今後とも、地球環境基金への温かいご支援のほど、どうぞよろしくお願いたします。

日本大学高等学校・日本大学中学校

昭和5年、「日本大学第四中学校」「日本大学第四商業学校」として開校。昭和23年に新制の「日本大学高等学校・日本大学中学校」が誕生。平成16年に完全男女共学化。教育理念は「自主創造」。

〒223-8566 神奈川県横浜市港北区箕輪町2-9-1
<http://www.nihon-u.ac.jp/orgni/yokohama>

